

平成29年度 公共事業再評価調査

(区分) **国補**・県単

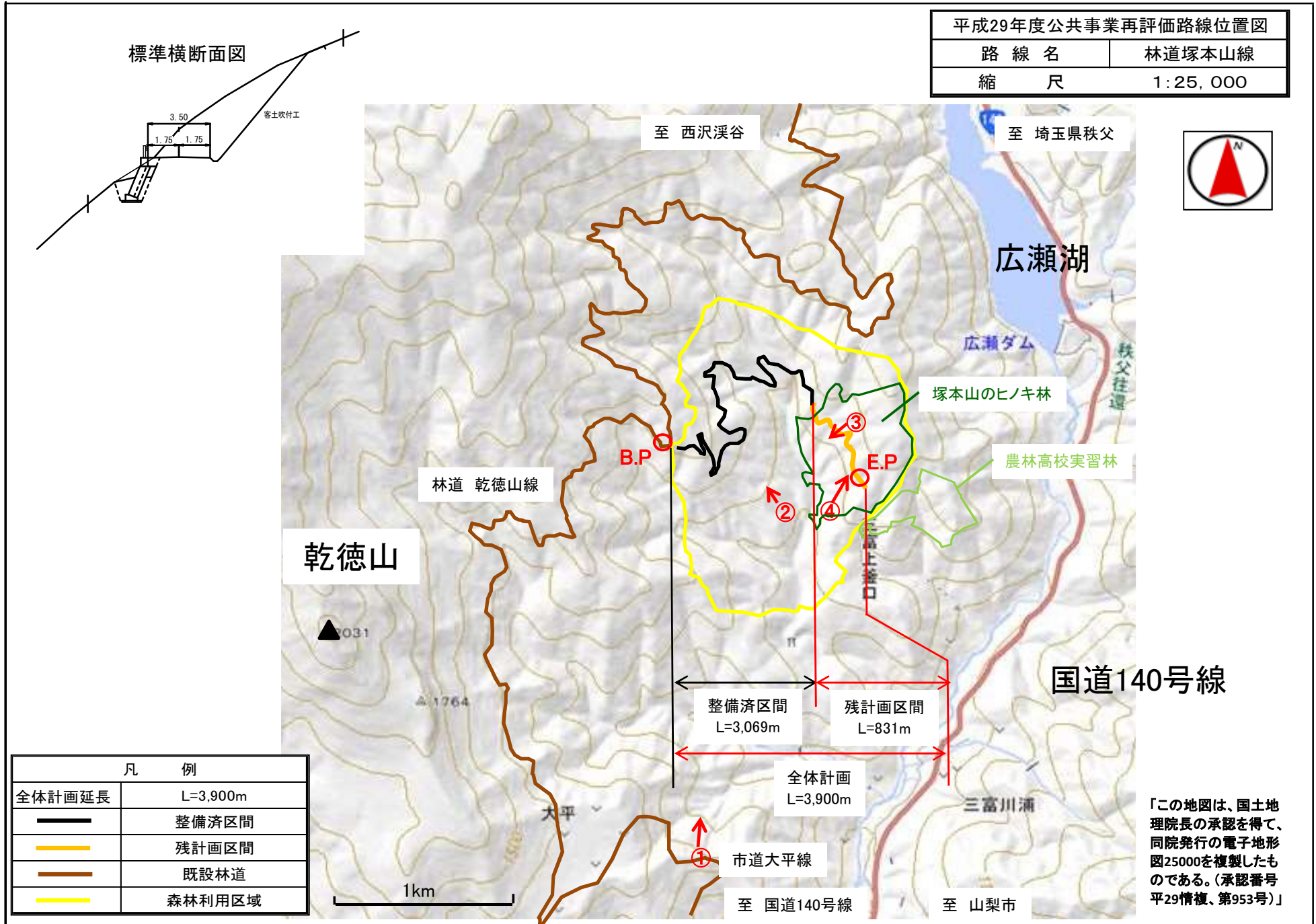
1. 再評価調査

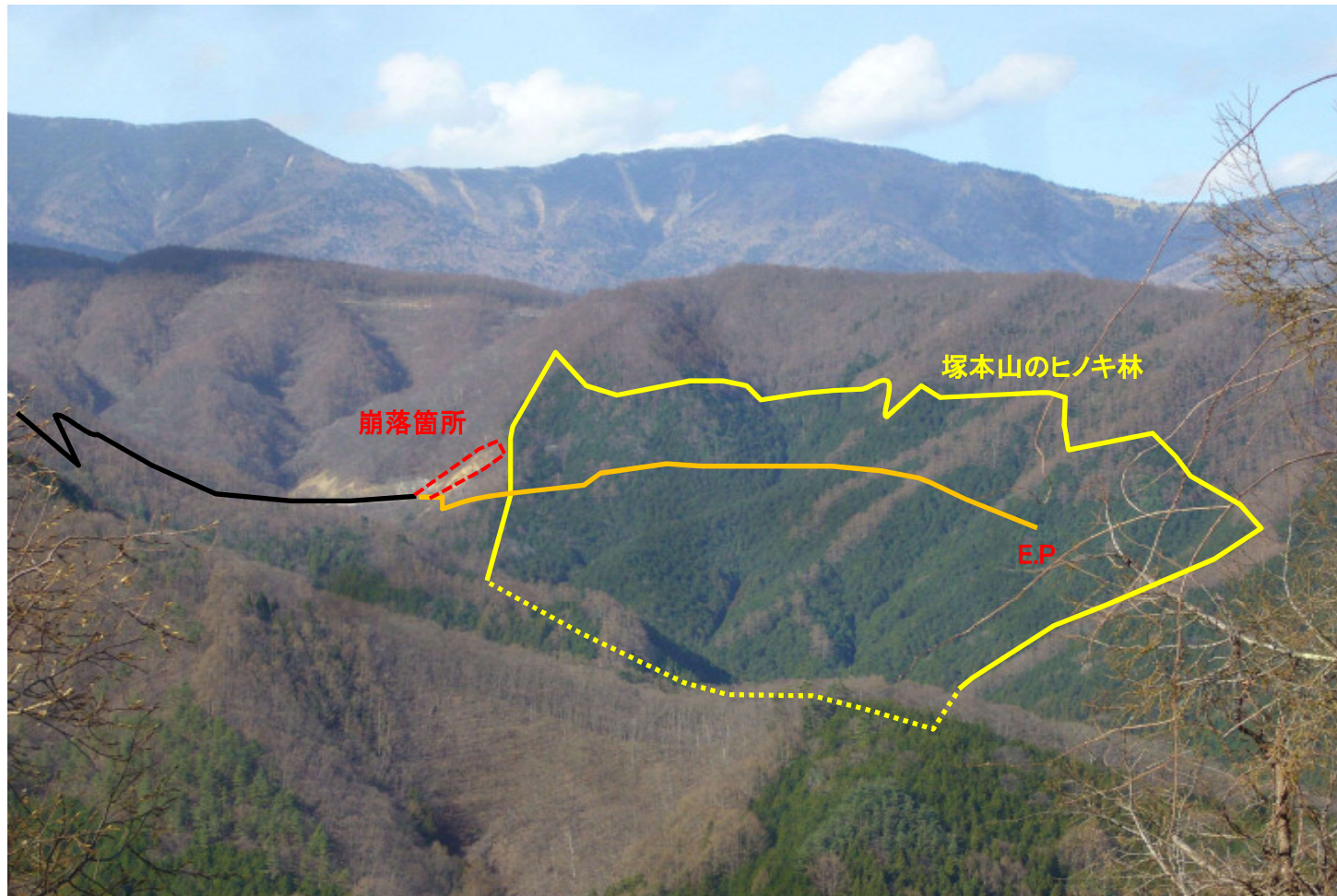
事業名	林道事業 [森林管理道開設事業 (国補)]		事業箇所	山梨市三富上釜口	地区名	林道塚本山線	事業主体	山梨県
	当初計画	現計画	今回見直し予定	<b>(2) 評価項目 [事業を巡る社会経済情勢等の変化]</b> <b>(今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容)</b> <b>①地域・住民の意向状況</b> ○ 山梨市長からの意見書 (H29.4) 利用区域内は、伐期を迎えるカラマツ、ヒノキ等の人工林が約8割を占め、今後、林道の整備により森林の維持、管理及び林業の生産性の向上を図る必要がある。またこのエリアは地元住民から山地災害を防止するための治山工事の要望があり、塚本山線の整備により治山整備も可能となることから、開設工事を引き続き進めていただくことを要望する。 <b>②産業・経済情勢</b> 国内の木材自給率は、平成14年に18.2%まで低下したが、国内の森林蓄積量の増加や国の木材需要拡大施策などにより、その後回復傾向となり、平成27年には33.2%に達している。 県では県産材の安定供給の取り組みとして、東京オリンピック・パラリンピックの関連施設に対し、材積で1万㎡の利用・販売に向けて取り組んでいるところである。また、オリンピック・パラリンピックの仮設材に対し、やまなし認証材を無償で提供し、大会終了後は県内の公共性に高い施設に再利用する取り組みを行っている。 <b>③国等の方針変更</b> 「森林・林業基本法」に基づき、森林及び林業に関する施策の基本方針を明らかにする「森林・林業基本計画」(H28.5)において、路網整備は林道等と森林作業道を適切に組み合わせた路網の整備が必要とされている。 <b>④上位計画・関連事業計画等の変更</b> ・富士川上流地域森林計画 (平成29~38年度) ・山梨県林内路網整備計画 (平成27~36年度) ・第3次県有林管理計画 (平成28~37年度) ・山梨県社会資本整備重点計画 (平成27~31年度) ・やまなし森林・林業振興ビジョン (平成27~36年度) <b>⑤自然環境条件等の変化</b> 林道沿線の溪流の荒廃が進行したため、平成28年度から仏ヶ沢治山事業を実施している。 <b>⑥その他</b> なし				
計画期間	H13~H23	H13~H27	H13~H33					
総事業費	1,170百万円	1,050百万円	1,267百万円					
<b>(1) 事業の概要</b>								
<b>①事業目的及び効果</b>								
本路線は、山梨市(旧三富村)の北部、広瀬湖の西部に位置する通称「塚本山」一帯の県有林の管理経営を目的とした森林管理道である。 利用区域内の森林はカラマツ、ヒノキ等の人工林が76%を占め、その多くが45~70年生に達し伐期(収穫間伐や主伐の適期)を迎えていることから、伐採搬出コストの削減、施業の効率化などを図るとともに、森林整備による水源かん養、土砂流出防備機能等の発揮にも貢献することが期待されている。また、本路線は森林基幹道「乾徳山線」の支線に位置づけられ、森林作業道を組み合わせこの地域における路網形成のため重要な路線である。 さらに、終点には見本林として恩賜林の歴史を伝える樹齢約100年生の「塚本山のヒノキ林」があり、今後、択伐を実施しながら残存木の成長を促し、大径木に育てるとともに、林床植生を回復させ公益的機能の維持増進を図っていくためにも必要不可欠な路線である。  森林管理道 計画延長 3,900m 幅員 4.0m 利用区域面積 205ha 森林資源蓄積量 39,493m <sup>3</sup>								
<b>③現計画の全体計画 (今回の再評価で変更する前の内容)</b>								
		平成27年度まで						
工事内容	林道開設 L=3,900m							
事業費	1,050百万円							
<b>④特記事項</b>								
「塚本山のヒノキ林」に近接して約30haの山梨県立農林高校の実習林がある。								
<b>⑤再評価時の評価状況 (平成23年度再評価)</b>								
この事業は、山梨市(旧三富村)の北部、広瀬湖の西部に位置する通称「塚本山」一体の県有林205haの管理経営を目的とした森林管理道を整備する事業である。 この路線の利用区域内の森林は、カラマツ、ヒノキ等の人工林が76%を占め、その多くが40~65年生に達し、利用可能な時期を迎えている。そのため、本事業実施によって、伐採搬出コストの削減や施業の効率化が図られるとともに、森林整備による水源かん養および土砂流出防備機能等の森林の持つ公益的機能の発揮も期待できる。 当路線は前回の再評価時において施工箇所の地形や地質条件の厳しさから、計画進捗率の遅れが生じ、これによる4年間の事業期間延長の見直しがされている。現在、現計画進捗率に対し、7%の遅れとなっているが、今後の開設予定区間は既設区間に比べ地形が緩くなり進捗が向上することが見込まれる。 したがって今後は現事業計画にもとづき、時間管理の徹底による進捗率改善とコスト縮減を図りながら、計画年度までの完成に努められたい。								
				<b>(3) 評価項目 [再評価時点の費用対効果分析]</b>				
				・平成13年度事業採択時計画における事業全体B/C 便益(B)/費用(C) = 未算出 ・平成18年度再評価時計画における事業全体B/C 便益(1,158百万円)/費用(976百万円) = 1.19 > 1.0 ・平成23年度再評価時計画における事業全体B/C 便益(1,325百万円)/費用(1,183百万円) = 1.12 > 1.0 ・平成29年度再評価時計画における事業全体B/C 便益(1,910百万円)/費用(1,741百万円) = 1.10 > 1.0 (林野公共事業における事前評価マニュアルにより算出 採択基準値1.00以上 B:便益 C:費用)				

## 2. 再評価調書

<p><b>(4) 評価項目 [事業の進捗状況及び見込み]</b></p> <p><b>①これまでの計画変更等の概要</b>          施工箇所の地形が急峻で、地質も脆弱な区間があり、計画どおりの事業進捗とならなかったため、計画期間の延長を行った。また、今後の開設単価の減少を勘案し、事業費を減額した。(平成18年度再評価)          当初：平成13年度～平成23年度          変更：平成13年度～平成27年度          残延長1,478mを年平均370mずつ開設することにより4年間で整備し、平成27年度に事業を完了させることとした。(平成23年度再評価)</p> <p><b>②施行済みの事業内容 ( (1) ③「全体計画」に記載した内容と比較)</b></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成28年度まで</th> <th>平成29年度 (評価実施年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計画</td> <td>開設延長</td> <td>L=3,900m</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>1,050百万円</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">実績</td> <td>開設延長</td> <td>L=3,069m</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>892百万円</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>③進捗率 (現計画に対する実績)</b></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度 (※1)</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計 画</td> <td>62</td> <td>72</td> <td>81</td> <td>91</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>63</td> <td>69</td> <td>75</td> <td>79</td> <td>79</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>算出方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計 画</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>計画延長/総延長×100</td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>79</td> <td>79 (※2)</td> <td>実施延長/総延長×100</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 平成23年度は再評価実施年度          ※2 平成29年度の実績は見込み</p> <p><b>④事業の進捗が順調でない理由</b>          平成23年度の再評価以降、コスト縮減を図り平成27年度の完了を目指していたが、その後の工事区間も地形や地質条件が厳しく、更に平成25年度以降は設計労務単価の著しい増加により、想定していたコスト縮減が出来ず、工事延長が延びなかったため。          さらに平成28年8月23日の台風により、平成27年度の繰越工事において施工箇所で大規模な崩落が発生し工事中止を余儀なくされ、その後も崩落上部の亀裂に動きが見られたことから、平成28年度については、事業を見合わせることにしたため。</p> <p><b>⑤今後の事業執行上の問題点</b>          崩落した法面の地質調査等の結果により、法面の対策工法を決定していくため、事業費及び計画期間を精査する必要がある。今後、事業費及び計画期間が増加する場合には、改めて評価を受けることとしたい。</p>			平成28年度まで	平成29年度 (評価実施年度)	計画	開設延長	L=3,900m	-	事業費	1,050百万円	-	実績	開設延長	L=3,069m	-	事業費	892百万円	-		平成23年度 (※1)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	計 画	62	72	81	91	100	実 績	63	69	75	79	79		平成28年度	平成29年度	算出方法	計 画	100	100	計画延長/総延長×100	実 績	79	79 (※2)	実施延長/総延長×100	<p><b>⑥今後の事業の進捗の見込み (計画期間について記載)</b>          崩落及びそれに伴う調査、対策工事により平成28年度から平成30年度までは開設工事を休止することになるが、平成31年度から開設工事を再開できる見込みである。崩落箇所より先は、傾斜は急ではあるがこれまでの区間と比較するとやや緩くなり、地質条件は礫質土と良くなるため、年間平均330mの開設が可能であることから、平成33年度に完了させることとしたい。</p> <p><b>⑦事業計画の変更の見込み・可能性 (総事業費について記載)</b>          ○総事業費の見直し          法面対策工事を行う必要があるため、総事業費が217百万円増加する見込みである。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>計画期間</th> <th>総事業量</th> <th>総事業費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現計画</td> <td>H13～H27</td> <td>延長L=3,900m</td> <td>1,050百万円</td> </tr> <tr> <td>見直し後</td> <td>H13～H33</td> <td>延長L=3,900m</td> <td>1,267百万円</td> </tr> <tr> <td>増減</td> <td>6年の増</td> <td>-</td> <td>217百万円の増</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>(5) 評価項目 [環境への配慮]</b>          地形の変更を極力少なくする路線計画とし、切土・盛土法面については、緑化による保全本が見込める箇所は在来種を配合した法面対策工による緑化を採用するなど、良好な自然環境の維持及び環境に配慮した計画である。</p> <p><b>(6) 評価項目 [コスト縮減の可能性]</b>          今後開設する区間については切土法面を低くして崩落の危険性の低減に留意するとともに、路側構造物や法面保護工を縮小するなど、総合的なコスト縮減に努める。</p> <p><b>(7) 評価項目 [代替案立案の可能性]</b>          事業の目的を達成するためには、地形・地質的に林業専用道や森林作業道など簡易な規格での開設は困難であり、高規格である林道開設以外に方策はない。</p> <p><b>(8) 所管部の今後の方針</b>      継続・<b>見直し継続</b>・その他 (      )          (理由)          本路線は、森林を適正に管理し木材の生産の基盤となる林内路網を構築する上で必要な林道であることから、事業期間の延長及び総事業費を変更し継続する。</p>		計画期間	総事業量	総事業費	現計画	H13～H27	延長L=3,900m	1,050百万円	見直し後	H13～H33	延長L=3,900m	1,267百万円	増減	6年の増	-	217百万円の増
		平成28年度まで	平成29年度 (評価実施年度)																																																														
計画	開設延長	L=3,900m	-																																																														
	事業費	1,050百万円	-																																																														
実績	開設延長	L=3,069m	-																																																														
	事業費	892百万円	-																																																														
	平成23年度 (※1)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度																																																												
計 画	62	72	81	91	100																																																												
実 績	63	69	75	79	79																																																												
	平成28年度	平成29年度	算出方法																																																														
計 画	100	100	計画延長/総延長×100																																																														
実 績	79	79 (※2)	実施延長/総延長×100																																																														
	計画期間	総事業量	総事業費																																																														
現計画	H13～H27	延長L=3,900m	1,050百万円																																																														
見直し後	H13～H33	延長L=3,900m	1,267百万円																																																														
増減	6年の増	-	217百万円の増																																																														

### 3. 添付資料シート（1）

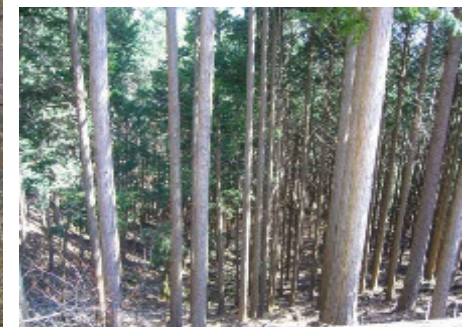




① 計画地遠景



② 林道沿線における森林整備



③ 先線計画箇所の現地状況



④ やまなし森林100選  
「塚本山のヒノキ林」

年度別事業費内訳表（今回変更後の内容）

年度	見直し後事業費（千円）	事業概要	進捗率※
H13	0	全体計画調査設計	0%
H14	70,000	林道開設工 L=330m	8%
H15	118,810	林道開設工 L=457m	20%
H16	50,000	林道開設工 L=140m	24%
H17	50,000	林道開設工 L=179m	28%
H18	51,000	林道開設工 L=190m	33%
H19	51,000	林道開設工 L=187m	38%
H20	51,000	林道開設工 L=200m	43%
H21	51,000	林道開設工 L=161m	47%
H22	101,000	林道開設工 L=348m	56%
H23	51,000	林道開設工 L=246m	63%
H24	75,000	林道開設工 L=240m	69%
H25	80,000	林道開設工 L=235m	75%
H26	71,364	林道開設工 L=156m	79%
H27	20,915	林道開設工 L=0m	79%
H28	-		79%
H29	15,400	法面調査 L=0m	79%
H30	100,000	法面对策工（L=80m）	79%
H31	101,000	法面对策工、林道開設工 L=170m	83%
H32	79,200	林道開設工 L=330m	92%
H33	79,200	林道開設工 L=331m	100%
合計	1,266,889	林道開設工 L=3,900m	

※進捗率＝実施延長／総延長×100